

放課後等デイサービス 夢門塾 自己評価表

記入日： 2024 年 12月 21日

事業所名： 夢門塾ゆうゆう笠岡

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	① 利用定員と指導訓練室のスペースは適切である	6			利用定員は、毎月法に準じて適切に対応している。十分なスペースが確保できるように、活動場所や人数を分散させる等の工夫をしている。
	② 職員の配置は適切である	6			配置基準は満たしており、法的な人員基準より多く職員を配置している。
	③ 衛生面の管理が行き届いている	6			毎日の清掃を実施し、チェック表にて管理している。感染症対策マニュアルがあり、社内研修を定期的に行い衛生管理に努めている。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定を振り返り)に、広く職員が参画している	6			毎朝、ミーティングを行い、前日の支援の振り返りと児童の情報共有を行っている。問題点については改善策の話し合いを行い、すぐに改善できる点は迅速に改善・実行を行っている。パートタイム職員はミーティング記録にて確認を行っている。
	⑤ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者様の意見を把握し、業務改善につなげている	6			評価表の保護者様の意見を共有し、職員全員で業務改善を行うようにしている。
	⑥ 自己評価の結果を公開している	6			自己評価の結果を集計し、書面にて保護者様に配布するとともに、ホームページでも結果の公表を行っている。
	⑦ 職員の資質向上のため、会議・研修の機会を確保している	6			事業所内で、支援や行事計画についてのミーティングを開催している。また、社内では8月以外毎月全体研修が行われている。今年度は虐待防止・身体拘束・権利擁護・ハラスメント・個別支援計画の重要性・専門的支援研修・環境衛生管理・緊急時の対応について等の研修を行っている。
適切な支援の提供	⑧ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者様のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を立てている	6			半年ごとにモニタリング面談を行い、現状把握と保護者様・お子様のニーズを聞きながら個別支援計画を作成している。
	⑨ 活動の計画をチームで行っている	6			月初に職員全員参加の行事会議を行っている。事前に5領域を意識したプログラム内容を職員が各々準備し、プレゼンを行いながら行事内容を決定する。実行は役割分担を決め、チーム全体で協力して行っている。
	⑩ 活動の計画が固定化しないよう工夫している	6			常に新鮮なアイデアを取り入れ、子どもの自主性が育まれるような活動を創意工夫している。
	⑪ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め、細やかに設定し、支援している	6			活動内容のねらいをしっかりと定め、季節感も取り入れながら平日、休日、長期休暇に応じた課題を決めて支援を行っている。土・祝・長期休みには美術館や博物館、公園等に出かけ、公共のマナーについても学んでいる
	⑫ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、活動を計画している	6			基本的には集団での活動を行っているが、活動や子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせている。集団での活動が難しいお子様には、個別で対応し、集団活動に参加できるような声掛けを適切に行っている。
	⑬ 支援開始前に、職員間で打ち合わせし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			毎朝ミーティングを行い、当日の支援について打ち合わせを行っている。一日の流れや役割の確認に加え、注意事項の確認もしっかりと共有している。
	⑭ 日々の支援に関して正しく記録をとる事を徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			当日に行った支援の記録は、当日中に終わらせるようにしている。子どもの気になる様子や気付きは、その日のうちに話し合い、情報を共有している。翌日のミーティングにて再度意見を出し合い、支援の検証・改善につなげている。
	⑮ 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	6			半年ごとにモニタリングを実施し、ご家庭、学校、夢門塾の様子を保護者と情報共有している。保護者・子どものニーズ、個々の発達に合わせた支援計画の見直しを行っている

⑩	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	6	ガイドラインを確認しながら、児童の実態に合わせて様々な活動を支援している。
---	---------------------------------	---	---------------------------------------

関係機関、保護者様との連携	⑰	学校との情報共有(年間計画・行事予定等予定の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6		学校から情報提供(下校時刻や行事予定等)をいただいている。急な下校時間の変更等の連絡調整を適切に行っている。
	⑱	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所または学校等との情報共有と相互理解に努めている	6		児童発達支援、学校等と情報を共有している。
	⑲	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供している	6		現在、障がい福祉サービス事業所への移行対象者がいない。
	⑳	児童発達支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		児童発達支援センター、自立支援協議会、社会福祉課、子育て支援課、教育委員会等、必要に応じて連携している。
	㉑	日常的に子どもの状況を保護者様と連携し、発達状況や課題について共通理解を受けている	6		ご利用時の様子を、連絡帳者コードモン、送迎時に保護者へお伝えしている。気になる様子が見られた場合、当日中に保護者にお伝えしている。保護者の方から伝えてくださることもあり、共通理解に努めている。また、専門機関への受診の際、事業所での活動の様子を文書でお伝えし、受診結果の報告をいただくこともある。
保護者様への説明責任等	㉒	運営規定、支援の内容、利用者負担等に付いて丁寧な説明を行っている	6		契約時に説明を行っており、質問等あれば適切に対応をしている。
	㉓	保護者様からの子育ての悩み等に対する相談に応じ、必要な助言を行っている	6		個別に送迎時や来所時、お電話等で随時対応している。保護者様に時間を作っていただき、相談室でお話することもある。
	㉔	保護者会等を開催し、保護者同士の連携を支援している	6		R6.6/10～6/14に参観と保護者交流会を5日間開催し、保護者様同士が交流する機会を設けた。
	㉕	子どもや保護者様からの苦情について、対応体制を整備、周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6		お子様や保護者様からの苦情があれば、迅速に対応を行う。必要に応じて相談支援専門員を含め対応をしている。苦情対応体制は整備している。
	㉖	定期的に会報等発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信している	6		毎月1回、おたよりの「ゆめだより」、行事予定の「夢通信」を発行している。また、ブログにて活動内容の発信をしている。
	㉗	個人情報保護に十分注意している	6		個人情報の取り扱いの関連書類は事業所にて保管し、持ち出し厳禁にしている。写真の取り扱いに関しては二重チェックを実行。職員は就職・退職の際、個人情報保護厳守の誓約書を提出している。
	㉘	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		絵カード等、視覚での支援や、文字盤を活用し意思疎通を行っている。お子様の発達に合わせて、分かりやすい言葉や表現、文章量でお伝えしている。
	㉙	地域の行事に参加したり、事業所に地域住民を招待する等し、地域に開かれた事業運営を行っている	6		本年度はR6.7/6に地域の体験型防災イベント「ぼっけえ防災」に参加した。また、地域の福祉喫茶での外食体験や、毎月の図書館の訪問を通して、地域の方と触れ合う機会を設けた。
	非常時などの対応	㉚	緊急対応、防災、感染症マニュアルを策定し、周知している	6	
㉛		非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っている	6		年に2回「火災」「津波・地震」と内容を変えて訓練を行っている。行事計画に入れて実施し緊急時に備えている。
㉜		虐待防止のため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		毎年、社内で行っている虐待防止の研修に参加し、虐待防止に努めている。
㉝		いかなる場合も身体拘束を行うか否かについて、組織的に決定し、子どもや保護者様に事前に十分説明し、了承を得た上で支援計画に記載している	6		契約時に身体拘束の必要がある場合についての説明を行っている。基本的には身体拘束は行っていないが、安全確保の為、一時的に実行した際には保護者様に状況をお伝えし、記録を残すようにしている。
㉞		保護者様に記入いただいた与薬表をもとに、子どもへの投与を行い、チェックを行っている	6		保護者様からお預かりした与薬表を管理し、与薬を行っている。職員全員で情報を共有し、飲み忘れがない様にチェックをしている。

③⑤	ヒヤリハットを綴り、事業所内で共有している	6		ヒヤリハットが起きた際には、記録を必ず残している。ミーティング時に記録をもとに改善策を話し合い、改善策の周知と実行を行い、再発防止に努めている。
保護者様評価、自己評価についてまとめ				
<p>・アンケートの結果から、保護者様やご利用者様が、夢門塾の活動プログラムや支援に満足し、楽しみに通ってくださっている様子がうかがえた。今後も新しいアイデアや専門的な視点を加え、5領域を意識した運動・学習・生活プログラムを組み立てていく。昨年度に引き続き、ご利用者様自身が考えをまとめ、話し合い、実行していくプログラムを今年度も継続し、自発的に発言できる場を増やしている。</p> <p>・来年度も保護者様と連携しながら、ご利用者様が「やってみたい」「挑戦してみたい」と思えるような活動を計画し、様々な新しい経験ができる場を増やしていきたい。</p> <p>・保護者様同士の連携については、保護者会や家族参加型の行事を通して、積極的に行う予定。職員間の連携も強化し、専門的な知識の学びを実践に活かし、ご利用者様の自己肯定感を育めるような支援に努めていく。</p>				